

令和6年度 第1回学校運営協議会抄録

日時:令和6年6月4日(火)18:00～ 場所:本校 会議室

出席者:阿部(市内自治会長)、池内(おかやま発達障害者センター)、大岩(株式会社ドゥワソール)、岡村(玉野備南高校長)、小川(市生涯学習センター)、角田(後援会会長)、河内(市商工観光課)、末吉(永石スポーツ)、高橋(保護者代表)、鶴田(社会福祉法人四ツ葉会)、中島(中島工業株式会社)、藤原(玉野市適応指導教室)、三澤(日比中学校長)、事務局:教頭、事務長、教務課長、生徒課長、普通科長

1. 開会(玉野備南高校長)

4月から玉野備南高校に着任した。定時制での勤務が初めてで最初は戸惑うこともあったが、生徒は素直で、学校は落ち着いた様子で安心している。順調なスタートが切れたと感じている。部活動も活発に活動し、ソフトテニス部が日頃の成果を発揮し、全国大会への出場を決めた。本日は、委員の方々から貴重なご意見をいただき、学校運営に生かしていきたい。



(池内委員はリモートによる参加)

2. 委嘱状交付 委任状の確認

3. 自己紹介

4. 会長・副会長の選出(選出後の進行は角田会長による)

委員の互選により、会長に角田委員、副会長に保護者代表の高橋委員が選出された。

5. 意見聴取と協議(一部を抜粋)

(1)今後の方針について(事務局より各担当から説明)

- ・学校経営目標・グラウンドデザイン・組織編成・スクールポリシー等学校の方針を説明。
- ・組織編成について、学校要覧の組織図を基にして、協議会の位置付けや分掌業務の説明。
- ・教育課程について、「キャリア基礎」で通級指導に特徴があり、希望者数増のため講座数を増やしたことを説明。
- ・学校経営の具体的計画について、各分掌の係より、本年度の目標と具体的計画を説明。

【具体的な取組】…学習指導では、ロッカーや机の身の回りの環境整備の徹底や、手帳を活用でスケジュール管理をさせる等の説明があった。生徒指導では、遅刻を減らすために、面談や自分自身で振り返りができるような手立てを行う等の説明があった。進路指導では、インターンシップや企業訪問の実施やアルバイトの奨励によりキャリア教育を行うとの説明があった。特別支援教育・教育相談では、学校見学の際に学校の理解を促すことや1・2年生へのスクールカウンセラーとの面談や日頃の丁寧な担任との面談の実施等の説明があった。

【委員 A】遅刻や欠席は社会では認められないので、生徒に時間を守ること、毎日登校することの大切さを教えてもらいたい。

【委員 B】卒業生にヒアリングをした際に、学校への欠席連絡はハードルが高いと聞いた。メール等ネットを利用しての欠席連絡はどうか。

(事務局)⇒本校では、生徒が直接伝え、教員が状況を把握することを大切にしている。メールで欠席を

把握した場合でも、こちらから確認のための連絡を行う。基本的には欠席連絡は保護者からしてもらおうように伝えているが、時間の関係で、生徒本人から連絡してくることが多い。

【委員 C】保護者としては、メールで欠席を伝えることになると、欠席するハードルが下がるように感じる。

【委員 D】就職者の定着率はどうか。

(事務局)⇒一昨年度卒業生は、8人のうち3人が離職。その前は離職率がさらに高い。その状況を改善するために4修制をベースのカリキュラムで、社会に必要なスキルを学ぶ機会を設ける。

【委員 E】グランドデザインの中で、自己管理能力を育てるために、手帳を利用してスケジュール管理をしているのは良い取組である。支援を必要とする生徒には特に有効であり、時間管理の力を養うことができる。また、ToDoリストを作成し、振り返った際に達成感を味わえるような取組をしてほしい。

☆学校経営目標や組織編成、教育課程等は承認された。

(2)4修制・令和7年度入試について(校長より説明)

- ・令和7年度から4修制ベースのカリキュラムに変更することを説明。
- ・令和7年度入試では、県立のⅡ期入試が撤廃されることを受けての本校の対応について説明。



【委員 F】転編入の制度はあるのか。

(事務局)⇒ 制度はあるが、実質には県外から転入してきた生徒のみに対応している。以前は他校から本校に編入してきたこともあったが、覚悟を持って本校に入学してもらおうねらいで、現在は受け直して入学してもらっている。

【委員 G】4修制ベースのカリキュラムに変更することを中学校の担任や、中学生、その保護者に浸透させることは難しい。全校の生徒にリーフレットを配付するなど、広報の戦略が必要である。

【委員 D】4修制ベースとなると、不安に思う中学生もいると思う。学校見学をしてもらい、意図や内容について伝えることが大切である。

【委員 C】不登校の生徒にとっては、高校を選ぶときに全日制の学校はハードルが高く、通信制の学校は自分の力で学習する自信が持てないのではないかと感じる。定時制の役割は大きい。

【委員 A】3年でも卒業が目指せるというのはどういうことか。

(事務局)⇒ 4修制では午後から授業がスタートするが、午前中にも選択授業を受講でき、さらに検定やインターンシップ等で増加単位をして3年で卒業できるカリキュラムである。

【委員 H】就職している生徒から、「備南は甘い」と言うのを聞いた。社会は厳しいということを感じているのだと思う。4修制にして、社会で必要なことを身に付けることができるのは安心である。

【委員 I】Ⅱ期入試の廃止で、一般入試と同じ時期になると中学校側は不安である。

6. 事務連絡

今後の予定について、学校運営協議会は年3回(6月、11月、2月)開催予定、臥竜祭は11月1日(体育の部)と12月12日(文化の部)に開催予定。

7. 閉会(角田学校運営協議会長挨拶)

学校運営協議会で学校を支えていきたい。長時間の熱心な協議に感謝する。